

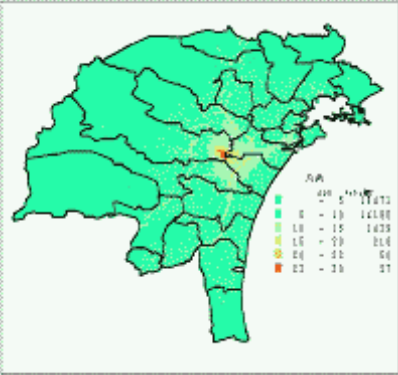
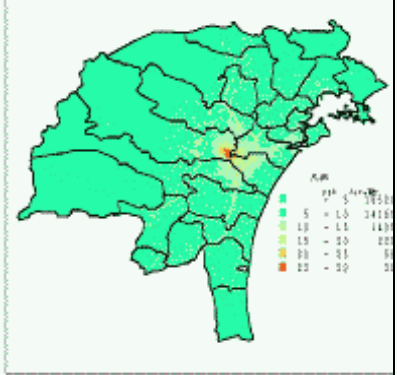
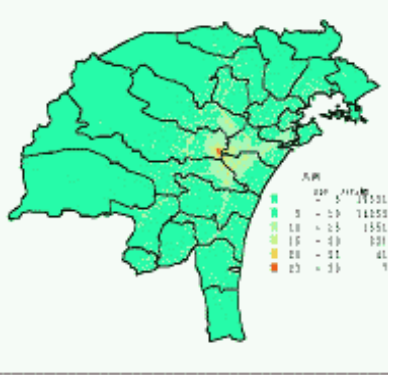
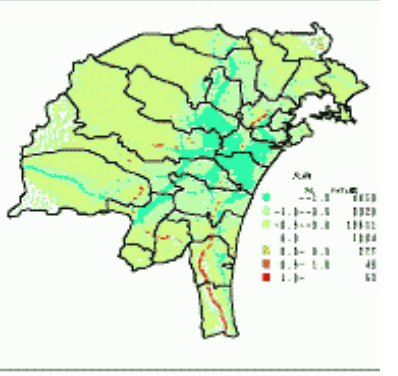
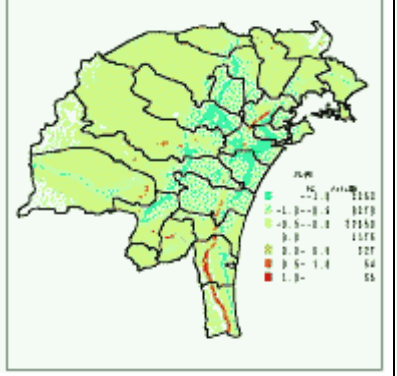
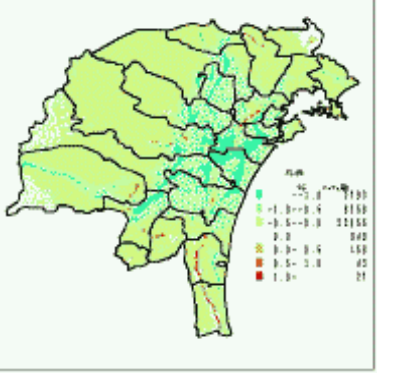
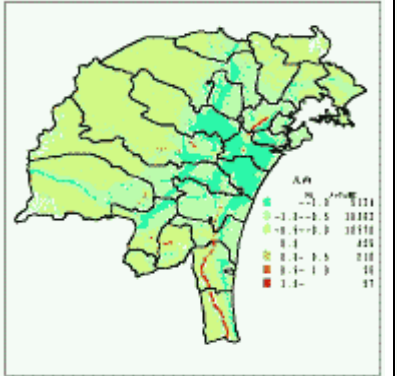
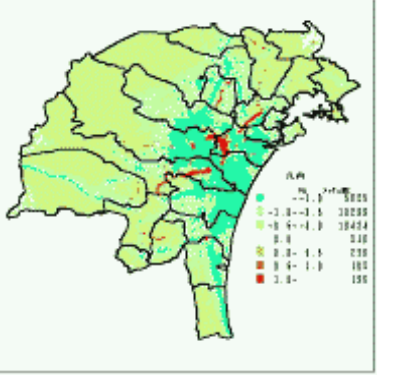
分析テーマ		環境： 1) 地球環境負荷の予測・評価 2) 大気環境の予測・評価 3) 地区環境の予測・評価
分析内容		交通分野のCO ₂ 、エネルギー消費量の予測・評価 交通分野のNO _x 排出量、NO ₂ 濃度の予測・評価 交通分野の騒音、振動の予測・評価
分析事例	現状での	近年、分析事例あり
	行政サイド 事業者サイド	センサ等の観測交通量データを使っている場合が多い
分析方法		<p>検討方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P Tデータを活用し、交通需要推計及び道路交通量配分を行い、配分結果から得られる区間別交通量、走行速度等をもとに環境排出量の予測・評価を行うことはこれまでも数多くなされている。 ・ ここでは、一般的な交通需要推計と排出量の算定フローを示す。 <p>分析フロー（例）</p> <pre> graph TD PT[PTデータ] --> FuturePop[将来人口] OtherData[その他データ・資料] --> FuturePop FuturePop --> GenConc[発生集中量の推計] GenConc --> DistTraffic[分布交通量の推計] DistTraffic --> ModeTraffic[交通機関別分担交通量の推計] ModeTraffic --> AutoOD[自動車OD交通量] ModeTraffic --> Other[その他] AutoOD --> TrafficDist[交通量配分] Other --> TrafficDist RoadNet[配分対象道路ネットワーク] --> TrafficDist TrafficDist --> VehicleType[車種別リンク別交通量 車種別リンク別走行速度] VehicleType --> FutureEmission[将来排出量の推計] EmissionUnit[排出原単位 (CO2, NOx, 騒音) (車種別走行速度別)] --> FutureEmission </pre>
必要データ		P Tデータ（ゾーン別将来人口・ゾーン間将来交通量（自動車OD交通量）） 関連データ（道路ネットワーク、排出原単位 等）
留意事項 方向性等		-
参考資料		環境指標からみた道路整備効果の検討の流れについては、 「道路投資の評価に関する指針（案）」、道路投資の評価に関する指針検討委員会編、平成10年6月、平成12年1月改訂 等に詳しい

(活用事例)

<p>検討事項</p>	<p>都市環境施策の導入による環境影響評価</p>
<p>検討地域</p>	<p>仙台都市圏</p>
<p>検討調査名</p>	<p>都市環境施策の社会的・経済的影響の定量評価手法に関する調査</p>
<p>検討主体</p>	<p>国土交通省 国土交通政策研究所</p>
<p>背景・目的</p>	<p>都市環境施策の評価について様々な検討、研究がなされているものの、総合的な観点からの評価方法については十分検討がなされているとはいえないため、「環境負荷」、「生活の質」、「経済」の3つの視点を設定し総合的な観点からの検討を行った。</p>
<p>検討方法</p>	<p>排出量を算定する際に、PTデータによる将来人口・将来交通量を用いている。</p> <pre> graph TD subgraph Policy [施策] direction LR P1[都市構造] P2[交通施策] P3[民生施策] end subgraph Other [他の部門] direction LR O1[NOx 排出量] O2[CO2 排出量] end subgraph Transport [交通部門] direction LR T1[NOx 排出量] T2[CO2 排出量] end subgraph Welfare [民生部門] direction LR W1[NOx 排出量] W2[CO2 排出量] end subgraph Calculation [算定方法] direction LR C1[NOx 排出量] C2[CO2 排出量] C3[NOx 排出量] C4[CO2 排出量] C5[NOx 排出量] C6[CO2 排出量] end subgraph Indicators [環境指標] direction LR I1[NO2濃度] I2[騒音レベル] I3[CO2排出量] end subgraph Evaluation [評価方法] direction LR subgraph Absolute [絶対評価] A1[環境基準達成有無] A2[環境基準達成有無] end subgraph Relative [相対評価] R1[濃度ランク別面積比] R2[騒音ランク別路線構成比] R3[総CO2排出量の比較] end end P1 --> O1 P1 --> O2 P2 --> T1 P2 --> T2 P3 --> W1 P3 --> W2 O1 --> C1 O2 --> C2 T1 --> C3 T2 --> C4 W1 --> C5 W2 --> C6 C1 --> I1 C2 --> I1 C3 --> I2 C4 --> I2 C5 --> I3 C6 --> I3 I1 --> A1 I1 --> R1 I2 --> A2 I2 --> R2 I3 --> R3 </pre> <p>図 環境負荷評価モデルの構造</p>
<p>検討結果</p>	<p>別紙参照</p>
<p>事業展開 等</p>	<p></p>

分析結果の例

(1) 都市構造、交通施策の組合せによる検討結果

都市構造 /施策	すう勢型	都心居住型	副都心型	
なし				
公共交通 施策				
	都市圏全体で濃度低下．特に都心部と仙台市内の幹線道路沿道でその傾向が強い			
TDM， 道路施策				
		さらに濃度低下．仙台市内で低下率が高い		
			都市圏全体・都心部で更に低下．環状道路沿で濃度上昇	